

「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」について 【概要版】

1 教育の情報化推進計画の概要

■教育の情報化とは（文部科学省「教育の情報化に関する手引き」）

- 「情報活用能力の育成（情報教育）」「教科指導における ICT の活用」「校務の情報化」の3つの側面から構成され、教育の質の向上を図るもの。
- GIGAスクール構想をさらに推進し、第2期計画（平成29年度～令和3年度）を発展させるものとして、令和4年度から令和7年度までの4年を対象とする計画 ※自治体が学校教育の情報化の推進に関する施策の計画を定めることは、努力義務（「学校教育の情報化の推進に関する法律」）

■「教育の情報化推進計画」と関連する計画

- (1) 「川崎市総合計画 第3期実施計画」(令和4年度～令和7年度)
「施策2-2-1「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の軸をつくる教育の推進」
事務事業：「教育の情報化推進事業」など
- (2) 「第2次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン第3期実施計画」(2022～2025)
「基本施策Ⅱ 学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす」の「施策4 教育の情報化の推進」に関連
事務事業：「教育の情報化推進事業」・「かわさきGIGAスクール構想推進事業」

■教育の情報化を目指すためのねらい（「第2次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン第3期実施計画」より）

- ・児童生徒自らが、氾濫する情報の中から何が重要かを主体的に選択し活用していくために必要な情報活用能力を育む。
- ・児童生徒への ICT スキルや情報モラル等についての指導の充実を図るとともに、各教科等で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進める。
- ・教員の ICT を活用した指導力向上に向けて、ライフステージに応じた研修体制を整え、教員をサポートする。また、外部団体や大学、企業とも連携しながら、指導力向上に向けた取組を推進する。
- ・教職員の業務効率化の取組に資するよう、校務支援システムや学務システム等の活用による効率化や最適化に向けた検討を進める。
- ・児童生徒の出欠席の状況や健康診断の結果、学習記録などの情報を教職員の間で共有できるようデータ連携等により見える化をし、一人ひとりに寄り添った指導の充実を図る。
- ・「かわさき GIGA スクール構想」では、1人1台端末を活用し、インターネットにつながる中で、クラウドにより学びを蓄積することや、双方向の学びが可能となり、既習事項や他者、他教科などとも「つながる」をキーワードに、段階的に学びの質を高める。
- ・クラウド・バイ・デフォルトの環境で1人1台端末を活用して教育データを蓄積し、児童生徒の可能性を最大限引き出すための授業改善に役立てる。

2 教育の情報化推進計画策定の背景となる国の動向

(1) 新学習指導要領

「児童・生徒の発達の段階を考慮し、情報活用能力（情報モラルを含む。）等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る」

(2) GIGA スクール構想（令和元年12月）

1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現 ⇒本市では「かわさき GIGA スクール構想」として、令和3年4月から本格的に1人1台端末の活用がスタート

(3) 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（中教審答申）（令和3年1月） 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実

(4) 「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」改訂（令和3年5月）

1人1台端末を活用するために必要なセキュリティ対策やクラウドサービスの活用を前提としたネットワーク構成等の課題に対応するとともに、児童生徒端末と教員用端末から得られる各種教育データを効果的に活用して教育の質的改善を図る。

(5) 教育データの利活用等

「デジタル教科書」「CBTシステム（MEXCBT）」「学習eポータル」等の活用の推進（「教育再生実行会議第十二次提言」令和3年6月）

3 本市における教育の情報化の状況

■第2期計画（平成29年4月～令和4年3月）の実施状況

- ・情報活用能力のさらなる育成と各教科等の指導における ICT 活用
- ・子どもたちの学びを支える ICT 環境の充実
- ・教育の情報化を推進する上での支援体制の充実

3方針のもと27事業を設定 ⇒ 全般的には第2期計画に示された施策は概ね実施

計画の途中で GIGA スクール構想による整備が行われる等、当初の想定よりも極めて速いペースで ICT 環境が構築

■学校アンケート調査、学校ヒアリング調査等を実施（令和3年8月～9月）

⇒本市における教育の情報化に関する現状や課題をアンケート結果から把握

- ・ICT 環境の整備及び活用について、GIGAスクール構想の実現により着実に進んでいる。
- ・情報活用能力を体系的に整理した「情報活用能力チェックリスト」の周知、活用に課題がある。
- ・操作研修は充実しているが、さらに進んだ ICT 活用研修のニーズが高い。

4 本市の教育の情報化のための重点事項

本市の現状や学校アンケート調査等から把握した問題点をもとに、今後、本市全体で取り組むべき重点事項を整理

観点	重点事項
子どもたちの新しい学びを支える観点	1 1人1台端末活用等による、情報活用能力の育成（情報モラルを含む）
	2 各教科等における ICT の効果的な活用
	3 1人1台端末の持ち帰りの推進と家庭との連携
	4 高等学校における ICT 活用の推進
	5 支援教育における ICT 活用の推進
	6 川崎市学習状況調査の CBT 化の検討
	7 学習データの活用の検討
	8 普通教室の環境整備
	9 教員の ICT を活用した指導力の向上
	10 学習面のサポート体制の整理、充実
教職員の業務効率化を支える観点	11 校務支援システムの積極的な活用
	12 業務効率化に向けた環境・運用方法の検討
	13 校務面のサポート体制の整理、充実
	14 CMS を活用した学校ウェブサイトの充実
ネットワーク環境及び ICT 環境の最適化に関する観点	15 コンテンツの増大に対応したネットワーク環境の安定運用
	16 情報セキュリティポリシーガイドラインを踏まえた、ネットワークの最適化
	17 教職員のテレワーク環境の整備支援
	18 1人1台端末における最適な管理手法・セキュリティの検討
	19 BYOD・BYAD 等を見据えた環境・運用体制の検討

■推進体制の構築と PDCA サイクル

毎年度、かわさき教育プランの中で点検・評価を行います。また、「情報化推進協議会」が中心となり、PLAN「計画」→DO「実施」→CHECK「評価」→ACTION「改善」から構成される PDCA サイクルを循環させることにより、本計画の着実な推進を図り、その都度最適な教育の情報化が実施されるようにします。